

## 事業所自己評価結果

まなびのひろば 瀬戸教室 令和4年3月

		チェック項目	工夫している点、改善目標等
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	利用者が集中して学習やトレーニングに取り組めるようレイアウト等を工夫している。現在はコロナ感染を避けるため間隔を空けてレイアウトしている。
	2	職員の配置数は適切であるか。	基本的に個別療育が出来るように配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	バリアフリー化はされていないが、事故防止のために環境整備を行い、利用者が過ごしやすいよう環境構成している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参画しているか。	定期的ミーティングや情報交換の時間を設け、業務改善を行っている。また、職員全員参加のトレーニングや研修等を行っている。
	5	保護者の方等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者の方等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	アンケート実施や送迎、面談の際に保護者の要望等を聞き、必要に応じて改善をしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	事業所のホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	関係連携機関から当事業所への意見等を聞き、必要に応じて改善している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	事業所内外での研修を定期的実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、お子さまと保護者の方のニーズや課題を客観的に分析した上で、計画を作成しているか。	定期面談や療育利用の際のフィードバック時に保護者のニーズを聞き取りアセスメントを行い、計画に反映させている。また、保護者ニーズの聞き取りを職員間で共有することで利用者にも最も必要な支援計画になるようにしている。
	10	お子さまの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	利用スタート時には、事業所で作成したアセスメントツールをもとに保護者に聞き取りを行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	個別に行われるプログラムが円滑に進むように毎日職員ミーティングを行い、情報共有している。それにより、利用者への支援のあり方を統一させることができている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	利用者にあった療育メニューが提供できるよう、職員で情報共有しながら日々試行錯誤している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	基本的に放課後と学休日で変わりはないが、日ごろから利用者各々に合わせた計画を立てて進めるようにしている。
14	お子さまの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる計画を作成しているか。	基本的には個別療育だが、休憩時間の関りや教具の貸し借りなど、人とのコミュニケーションを大切に出来るような場を設定するように取り組んでいる。	

## 事業所自己評価結果

まなびのひろば 瀬戸教室 令和4年3月

適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	毎日、療育前に職員全体でミーティングを行い、その日の療育をどのように進めていくか意見を出し合い相談することが出来ている。また、療育後には振り返りを行い、療育内容に加えて保護者からの要望などの情報共有もしっかり行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	出来た事、難しかった事、気になった事は必ず記録に残し、支援のポイントや配慮すべき事を考えられるようにしている。
	18	定期的モニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断しているか。	定期的なモニタリングを行い、職員間で検討した後、支援計画の修正を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	ガイドラインを参考にし、個々の子どもの状況に応じて創意工夫を図りながら支援している。
関係機関や保護者との連携関係や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にそのお子さまの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	子どもの特性や支援内容を理解している職員が参画している。
	21	学校との情報共有、連絡調整を適切に行っているか。	必要時、学校連携を図り支援の方向性を共有している。
	22	医療的ケアが必要なお子さまを受け入れる場合は、お子さまの主治医等と連絡体制を整えているか。	現在は医療的ケアが必要な利用者はいないが、必要となった時は連絡体制を考え、整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	保護者を介した情報提供や書面送付、連携会議等で情報共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	現在までにはないが、今後必要時には情報共有等行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	必要時、助言を求めることがある。今後も必要に応じて連携したり、研修を受けることも検討していく。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	定期的開催される協議会に参加している。
	27	日頃からお子さまの状況を保護者の方と伝え合い、お子さまの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	毎療育後、フィードバックを行い、療育の様子をお伝えしたり、学校やご家庭での様子を伺ったりする時間を設け、保護者との情報共有に努めている。
	28	保護者の方の対応力の向上を図る観点から、保護者の方に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。	送迎時や面談時に頑張っている所や上手くいっている事を伝えるようにしている。保護者の相談を聞いた時には情報の整理や活用できそうなリソースと一緒に考えている。

## 事業所自己評価結果

まなびのひろば 瀬戸教室 令和4年3月

保護者への説明責任等	29	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時に説明を行い、必要時にはその都度お伝えしている。
	30	保護者の方から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	必要に応じて様々な形で相談を受け、情報の整理や助言などお手伝い出来ることをさせていただいている。
	31	お子さまや保護者の方からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、お子さまや保護者の方に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	問題に対して状況を整理し、本質を明確にした上で速やかにミーティングを行い、改善のための行動の共有を行っている。
	32	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連携体制等の情報をお子さまや保護者の方に対して発信しているか。	システムや教室掲示を活用し、情報発信を行っている。講演会やイベント等の案内など必要に応じて配布している。
	33	個人情報に十分注意しているか。	職員間で意識の統一を図るとともに、施錠できる場所で管理している。
	34	障害のあるお子さまや保護者の方との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	個々に応じてそれぞれにあった伝え方を選び、理解できるように工夫しながらお伝えしている。
	35	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	フォーラムなどを通じて地域住民の方々に啓発活動を行っている。
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアルなどを策定し、職員や保護者の方に周知しているか。	マニュアルを作成し、教室内に掲示したうえで職員間の意識の徹底を図っている。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	マニュアルを作成し、定期的に避難訓練やシュミレーションを行っている。
	38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	定期的に事業所内で研修を行っている。
	39	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	日々の療育の前後でのミーティングや全体会議で情報共有し、事故防止に努めている。